



①

世田谷美術館分館

## 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum

展覧会名 FLOWERS and FLOWERS 宮本三郎の描く花・華  
会 期 2023年4月1日(土)～9月10日(日)  
会 場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum  
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836 [www.miyamosaburo-annex.jp](http://www.miyamosaburo-annex.jp)  
主 催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館  
開館時間 10時～18時(最終入館は17時30分まで)  
休 館 日 毎週月曜日(ただし、7月17日[月・祝]は開館、7月18日[火]は休館)  
観 覧 料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上・中小生100円(80円)、障害者100円(80円)  
ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者(当該障害者1名につき1名)は無料  
※( )内は20名以上の団体料金  
※世田谷区内在住・在校の小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

仕事に疲れると花屋の店を一巡して回る。

私の近くには花屋が七、八軒もある。

花は季節を早く知らせてくれる。

二階の小画室の前はいつもちょっとした花屋だ。それでも毎日、新しい花を買い入れる。

新しい花を入れると、古い花に生氣と魅力が現れて、新しい構図のヒントを与えられることもある。…

——宮本三郎「花」『繪』（通巻第五号・一九六四年七月号）より

洋画家・宮本三郎（1905-1974）が生涯を通じて愛したモチーフのひとつ、花。奥沢の自宅兼アトリエで送った生活と制作の傍らには、常に花がありました。初期の作品には、人物画や静物画を構成する要素として、花瓶に生けられた花が穏やかなタッチで丁寧に描かれてきましたが、次第に花そのものが主役となる機会が増えると、表面的な美しさや形態の再現にとどまらず、よりその実体や本質を追求するような試みが展開されます。やがて1960年代後半にもなると、宮本の花は、鮮やかな色彩と力強いタッチによって画面を覆いつくし、花自らがひとつの生命体であることを主張し始めるのでした。それは、動かないもの、命のないものという意味での「静物=Still Life」を超え、自律する存在として鮮烈な輝きを放っています。またこの変化は、宮本が描く女性像の変遷——他者から視線を注がれる対象としての女性から、個としての主張と生を漲らせた存在としての女性へ——にも重なります。宮本三郎が「花」を描いた作品を中心に、時代ごとの女性像を織り交ぜつつご紹介します。

□ 各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。

②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



①《黄色バックの花》1961年頃 ②《(花)》1967-71年頃 ③《Fleure (ブルーバック)》1967-71年

④《芥子と立藤》1967年 ⑤《バレリーナ》1962年 ⑥《(静物/壺 花 グラス)》1961年頃

⑦《(婦人像)》1969年頃 ⑧《花と女》1932年 ⑨《おどりこ》1962-64年頃 ※( )は作品名不詳のため仮題

## □ 宮本三郎（みやもと・さぶろう）について

1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》（1942年）をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 撮影年不詳

## □ 講演会やワークショップ、コンサートなどの開催について

イベントの開催につきましては、当館ホームページでお知らせいたします。

[参考] 過去の活動



鑑賞ワークショップ  
絵をみること、かんじること、わかること  
(2019年8月28日開催)



ニューイヤー・コンサート  
アコルディ弦楽四重奏団  
(2020年1月26日開催)



サマー・ワークショップ2022  
「つくってみよう じぶん色の油えのぐ」  
(2022年8月12日～14日開催)

## □ ご来館の際のお願い

- ・ご入館に際しては感染症予防のため、手指消毒、検温にご協力ください。  
館内で十分な距離を保てない場合がありますので、マスクの着用を推奨しております。
- ・展覧会の会期および内容が、急遽変更や中止になる場合がございます。
- ・会期中の最新情報は美術館ウェブサイト等でお知らせします。

## □ 交通案内

東急東横線・大井町線「自由が丘」駅下車／徒歩7分

東急大井町線「九品仏」駅下車／徒歩8分

東急目黒線「奥沢」駅下車／徒歩8分

東急バス（渋11）渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車／徒歩1分

東急バス（園01）千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車／徒歩10分

※当館の来館者用駐車場は、車椅子の方用スペース1台分のみとなります

## □ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館（広報担当）

E-mail: miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL: 03-5483-3836

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館